

見沼たんぼ・野草スケッチ「カラスビシャク」

科名：サトイモ科 ハンゲ属

花言葉：心落ち着けて



16.5.9 JR 東浦和駅近くの道路脇にて

P.S. 駅に行く途中、歩道脇の植え込みの中にひろっと伸びた見慣れない植物が目につきました。木立ちの日陰の中に芽を出すウラシマソウより少し小ぶりの姿をしていました。採集し家に持ち帰り早速スケッチをし、図鑑で調べてみました。ありました「カラスビシャク」という名。



「カラスビシャク」

原産地：中国から帰化した史前帰化植物、朝鮮半島

生育地：日本全土に分布、田畑や道ばた、草地

茎：10～60cm 多年草

花茎は葉の根元で分かれ、葉より高く伸びる。

葉：根元から立ち上がり3枚の小葉が1組2～3枚つける。

花期：5～8月

花：多数の小花がつく

花色：緑

種子：液果

特徴：多年草、鎮吐作用があり、半夏湯（はんげとう）などの漢方薬に配合される

名前の由来：仏炎苞を「柄杓」に見立て、人が使うには小さいということで名づけられた。

記述は、みんなの花図鑑のサイトなどを参考にさせていただきました。

2016. 7. 5